

第3回研修会から

2019. 2. 3 (日)
郡山ユラックス熱海にて

特別講演 「アスリート育成の道すじ」 13:20 ~ 14:30

～ 箱根駅伝頂点とその先をめざして ～

講師 東洋大学陸上競技部（長距離部門）監督 酒井 俊幸 先生

本年度の全県研修会の内容は、本県学法石川高校出身の東洋大学陸上競技部（長距離部門）監督酒井俊幸先生をお招きし、箱根駅伝とその先を見据えた選手育成の真髄を学ぶために開催いたしました。

ここ数年間は大阪桜ノ宮高校バスケットボール部の暴力行為と被害生徒の自殺という事件でスポーツ指導者の指導の在り方を見直すことになり、暴力行為根絶のためのスポーツ指導者あり方に絞ったテーマでの研修会を開催していましたが、今回は一流監督の選手育成手法を聞いてみようとの趣旨で講師の選定をいたしました。

そのような折、2週間前の全国都道府県男子駅伝で福島県が悲願の初優勝を飾り、優勝メンバーは東洋大学 相澤 晃選手をはじめ学法石川高校関係の選手が大きな結果を残したまさにグッドタイミングの企画となりました。

【研修会の様子】



会場には200名を大きく超える指導者が集まり酒井監督の指導哲学を吸収しようと熱心に聴いていました。

その第一が自分自身の選手時代から始まり、決して卓越した選手でなかったが、現役選手のころの挫折が根本とした指導方針になっているとのことでした。

第二として指導は一人ではできない、監督を中心として、コーチやマネージャーが下支えをしてくれるお蔭で結果を残すことができる組織力の大切さを力説されました。

第三は「その1秒をけずりだせ」というチーム・スローガンは21秒差で早稲田大学に敗れた2010年度の敗戦に学ぶことで生まれたもので、敗戦により学ぶこと、負けたあとの改革の必要さをさらに強調され最後に箱根駅伝にとどまらず、2020東京オリパラや、その後の国際大会で世界に伍して活躍のできる選手育成が指導者として大きな目標であるとの講演の概要でした。

『目標は高く、視野は広く、考えは深く』

指導者の一言が選手のモチベーションを大きく左右する。プレーヤーが伸びる、伸びないは指導者の一言がものをいう。

指導者としてことばの持つ大切さを認識して常にプレーヤーに沿った指導者を目指したいと思います。

